



Do you like books?

本は好き？ 読書は苦手？ 本をテーマにした本をあつめました！



『もってけ屋敷と僕の読書日記』

三川 みる／著 新潮文庫nex

鈴川有季は尾道に暮らす中学二年生。ある日、奇妙な本の自動販売機を見つける。100 円を入れると本の束と、なんと七曲^{ななまがり}という老人が出て来てビックリ。終活で本減らしをもくろむ七曲に無理難題を押し付けられる有季。だが、次第に本との出会いが人生を変えてゆく。二人のかけ合いも楽しい一冊。



『高校図書館デイズ 一生徒と司書の本をめぐる語らい』

成田 康子／著 ちくまプリマー新書

場所は北海道・札幌南高校の図書館。この本は、図書館を訪れる13 人の生徒に聞いた話を学校司書の先生が解釈し、書かれています。勉強や部活動のかたわら、読書が欠かせないという生徒一人一人の物語は、どれも魅力的なものばかりです。人と人をつなぐ本の力を、あらためて感じさせてくれます。



『リケイ文芸同盟』

向井 湘吾／著 幻冬舎文庫

文芸編集部に異動になった、超理系人間の桐生蒼太。企画会議、刊行スケジュール等、すべてが曖昧^{あいまい}な世界に戸惑う桐生だが、理系的思考で世に残る名作をプロデュースすることを決意する。目指すはミリオンセラー！編集者の日常を描いた、さわやかお仕事小説。

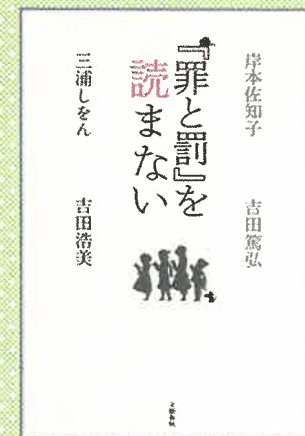


『本屋って何？』

秋田 喜代美／監修 稲葉 茂勝／文

ミネルヴァ書房

本屋にまつわる歴史や仕組み、世界の本屋さんの紹介や仕事の舞台裏など、古今東西の本屋情報が盛りだくさんの内容です。写真も豊富でわかりやすく、本好きの人にとっても、そんなに本好きじゃない人にとっても、「へえ～そうなんだ！知らなかった」という驚きとともに楽しめる一冊です。



『『罪と罰』を読まない』

岸本 佐知子・三浦 しをん・吉田 篤弘・吉田 浩美／著

文藝春秋

この本は、ドストエフスキーの『罪と罰』を未読の4 人による“読まない座談会”の様子をつづったものです。メンバーはあらかじめ「〇ページまではヒントとして朗読可」などの簡単なルールを決め、本の内容を推理していきます。もちろん、最後は読んで答え合わせです！あなたも友達や家族とゲーム感覚で挑戦してみませんか？